

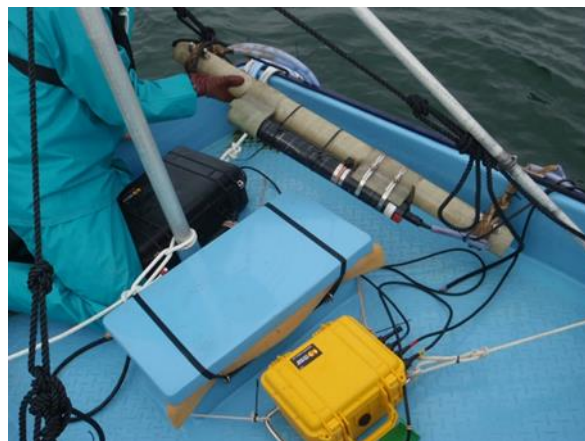
ノリ養殖業者の皆さんへ

児島湾沖の硝酸塩観測データの提供を始めました

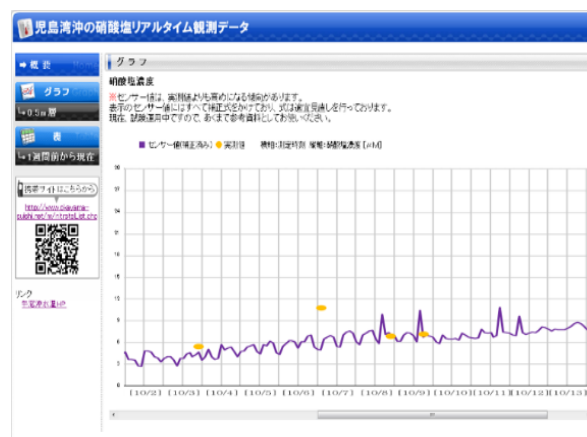
瀬戸内海では貧栄養化が問題となっており、生態系への影響が心配されている。栄養塩にはいくつか種類が存在するが、その中でもノリの生長に不可欠な溶存態無機窒素(DIN)を主な対象として、水産研究所では動態解明に取り組んでいる。

昨年度、海水中の栄養塩濃度を現場で測定するシステムを導入した。DINは3種類の物質から構成されているが、ノリの養殖期間に当たる冬季では硝酸塩がDINの主成分となっている。この硝酸塩濃度を測定するセンサーとその他の各種センサーを2014年1月～3月に児島湾沖へ設置し、データを取得した。これにより、今までよりも迅速な測定が可能となり、干潮時に河川水の影響によるDIN濃度の上昇が確認されるなど新たな知見も得られた。また、硝酸塩のデータは岡山県水産研究所のホームページ上で公開し、約2ヶ月間で1,000件以上のアクセスがあった。

本年度も、ノリ養殖期間に合わせ10月下旬から3月下旬までホームページ上でデータを公開する予定だ。2時間毎の数値を表示するよう改良する等ホームページは昨年度よりもデータの精度やグラフの見やすさを向上させたので、多く方に利用されることを願っている。(水圏環境室:渡辺)



測定システム一式



ホームページ画面

ホームページ URL

PC 用

<http://okayama-suishi.net/indexNitrate.html>

携帯用

<http://okayama-suishi.net/m/nitrateList.php>

